

【様式】

令和4年度 学校マネジメントシート

学校名（特別支援学校東紀州くろしお学園おわせ分校）

1 目指す姿

(1) 目指す学校像		児童生徒一人ひとりの可能性を引き出し、元気いっぱい、笑顔いっぱい、光いっぱいの『くろしお学園』をつくる。
(2)	育みたい児童生徒像	<ul style="list-style-type: none"> ①地域の関係機関・団体と協働して学習を進めている。 ②地域の小・中・高校等との交流を盛んに行っている。 ③自らの持てる可能性を伸ばそうと努力している。 ④学校における学習活動等に積極的に取り組み、経験・体験を積み重ねている。
	ありたい教職員像	<ul style="list-style-type: none"> ①特別支援学校に勤務する教職員として、児童・生徒の障がいに基づいた誠実な支援により児童・生徒及び保護者関係者からの信頼に応えられるよう、人権を重んじた真摯な態度で教育活動に臨んでいる。 ②地域の企業・関係機関・団体と協働し、児童・生徒の卒業後の進路保障に積極的に取り組んでいる。 ③地域の小・中・高校等との交流が円滑に進むよう積極的に取り組んでいる。特別支援教育のセンター的役割を果たすため、地域の学校へ専門的なアドバイスを行うとともに、自己研鑽を重ね専門性を高めている。 ④教育環境をソフト・ハード面で整備し、児童・生徒が安全に安心して学校生活を送ることができるよう積極的に取り組んでいる。 ⑤ワークライフバランスを意識し、働き方の見直しと時間外勤務の削減に取り組んでいる。

2 現状認識

(1) 学校の価値を提供する相手とそこからの要求・期待	<ul style="list-style-type: none"> ①<児童生徒> 健康で楽しく安全に学び、社会で役立つ知識や技能を習得できる学校であり、卒業後の進路が期待されている。 ②<保護者> 楽しい学校生活を送り、卒業後の進路決定についての関心が高い。 ③<地域の学校> 特別支援教育の専門的知識や技能の提供と教育相談の充実。 	
(2) 連携する相手と連携するうえでの要望・期待	<p style="text-align: center;">連携する相手からの要望・期待</p> <ul style="list-style-type: none"> ①<保護者> ・安全・安心な学校生活と進路の決定 ②<地域の福祉関係機関> ・地域行事への学校、児童生徒の積極的な参加と情報の提供 ③<地域の学校> ・特別支援教育の専門性の提供及び巡回相談等の充実 	<p style="text-align: center;">連携する相手への要望・期待</p> <ul style="list-style-type: none"> ①<保護者> ・教育活動への理解と協力及び参画 ②<地域の福祉関係機関> ・在学中から卒業後も切れ目のない支援体制 ③<地域の学校> ・本校への理解と協力 ・交流活動の充実
(3) 前年度の学校関係者評価等	<ul style="list-style-type: none"> ○リモート授業やオンデマンド教材作成などの教育活動に引き続き取り組んでいく。 ○子どもたちのいきいきとした表情を指標に、教職員が同じ方向を向きながら力を合わせて教育を行っていく職場づくりを進める。 ○学校、家庭、事業所、行政機関で前向きな意見交換のおこなえる機会を増やす。 	

(4) 現状と課題	教育活動	<p>○児童生徒の状況をよく見ながら、教員間で指導支援事項の共有を十分に行って幅広く教育活動に取り組んでいきたい。</p> <p>○すべての教員が自信をもって教育活動に取り組めるような研修や情報共有などを進めていきたい。</p>
	学校運営等	<p>○指導方法の改善を目指して情報収集を行い、事例検討や研修を通して子どもたちの自立につながる教育を実践していきたい。</p> <p>○本校の教育内容や実践、特別支援学校のセンター的機能について広く周知するため広報活動や各学校や関係機関への訪問を積極的に行っていきたい。</p>

3 中長期的な重点目標

教育活動	<p>①<個々のニーズに応じた授業の実施> 個々の特質を把握し、そのニーズを十分踏まえて「個別の教育支援計画」等を策定する。これらに基づき教育課程や学習計画を作成し、児童生徒の自立に向け、多様な生活学習の場を提供する。</p> <p>②<進路支援の充実に向けた取組> 「個別の移行支援計画」を策定し、地域、関係諸機関との連携を図りながら児童生徒の支援を継承する体制を確立するとともに、卒業後の進路選択肢の拡大に向けた取組と情報提供を行う。</p>
	<p>①<専門性向上の取組> 教職員一人ひとりが、特別支援教育に関する幅広い知識を持つとともに、1つ以上の分野（特質・疾病等）について、専門的な知識・技術を持ち、地域からの相談に応じられるようにする。また、センター的役割を果たすため、教材や図書室等資料を整備し、地域等への貸出しを行う。</p> <p>②<地域ネットワークの拡大> 地域の保・幼・小・中・高各学校、園や福祉関係施設、行政機関等との連携を強め、個人情報に配慮して情報共有を図る。また、紀南地域でセンター的機能を果たす本校との連携も深める。</p> <p>③<児童生徒の安全・安心かつ充実した学習環境の整備> 児童生徒が安全に学校生活を送ることができる環境を整備する。</p> <p>④<情報提供による信頼の構築> 保護者や地域の「信頼」を確保し続けるために、さまざまな広報媒体を効果的に組み合わせた情報発信を行う。</p> <p>⑤<職場環境の整備> 教職員が、意欲的に業務に取り組み、充実感を得ることができるよう、目標・目的を共有する。話し合いの場を設定し、業務内容の見直しや過重労働の削減などに取り組む。</p>

4 本年度の行動計画と評価

(1) 教育活動

【備考欄について】「※」：定期的に進捗を管理する取組 「◎」：最重要取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
個々のニーズに応じた授業の実施	<p>【小学部】</p> <p>体力の維持・向上と健康管理</p> <p>○活動指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ベークタイムに参加して体力を維持・向上させる。 ・食環境を整備して肥満度(指数)を維持させる。 ・家庭や医療機関と連携し児童の体調把握に努める。 <p>○成果指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ベークタイムの参加率90%以上 ・肥満度(指数)の現状維持 ・対象児童の療育相談やリハビリに2回以上参加する。 		

<p>進路支援の 充実に向け た取組</p>	<p>【中学部】 学校外での授業実践の機会を増やすことによって、対人関係や生活経験の幅を広げ、生きる力を育む。</p> <p>○活動指標 ・買い物学習や公共施設の利用、自然とのふれあい学習、地域での奉仕活動など学校外での学習活動を、生活単元学習や特別活動、総合的な学習の時間等の中で実践していく。</p> <p>○成果指標 ・年間15回以上の校外での学習活動を実施する。</p> <p>【教務・研修部】 児童・生徒の学習状況や過程、成果を適切に評価すると同時に指導の改善をする。</p> <p>○活動指標 ・個別の指導計画を作成する際に、目標や手立てについて各学部や学年で丁寧に検討する。 ・個別の指導計画の目標に対する振り返りを毎回の授業後おこなうことを促し、支援や指導の改善を図る。</p> <p>○成果指標 ・年度末にアンケートを行い、個別の指導計画に基づいて評価ができたと答える教員が70%以上いる。</p> <p>【高等部】 卒業後の進路を見据え、一人一人につけたい力を明確化し、作業学習の目標に反映させながら取り組むことでその実現を図る。</p> <p>○活動指標 ・進路先で必要とされる力や姿に基づきながら、一人一人につけたい力を明確化し職員間で共通理解を図る。 ・作業学習について、目標達成に向けた指導・支援の工夫等授業改善に取り組む。</p> <p>○成果指標 ・学期に1回、進路担当からの情報提供の機会を設ける。 ・目標設定や手だて等、作業学習についての研修を年に2回行う。</p> <p>【進路・教育支援部】 よりよい進路選択に向け、早期から進路に関する意識を向上し、在学中から卒業後の生活について見通しを持ち準備をすすめられるよう、全学部の教員・保護者に対して情報提供を行う。</p>		
--------------------------------	---	--	--

	<p>○活動指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各学部の教員および保護者に向けて、高等部の進路支援や卒業後の生活に関する情報を提供する機会を増やす。 <p>○成果指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進路だよりを学期に1回以上発行し、卒業生や事業所の様子を伝える。 ・PTAと連携し、保護者が地域の福祉事業所の現状を理解し、今後について話し合える機会を作る。 ・各学部と連携し、懇談会等で担任から進路やPTA活動について話していただくようお願いする。 <p>【総務部】</p> <p>PTA を中心とした進路支援活動を行ない、地域の進路先拡大、市町や福祉事業所との連携強化を目指す。</p> <p>○活動指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進路部と共同し、本校の進路支援活動の周知を図り、PTA 会員へ進路支援の情報や活動の場を提供する。 <p>○成果指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・PTA 進路支援に係る懇談会を年3回以上開催することを目指す。 ・市町、福祉事業所、PTA 合同の進路支援懇談会を年1回以上開催することを目指す。 	
--	---	--

改善課題

(2) 学校運営等

【備考欄について】「※」：定期的に進捗を管理する取組 「◎」：最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
専門性向上の取組	<p>【教務・研修部】</p> <p>学習指導要領を意識し、学校生活全体を通じた自立活動の取り組みを行い授業の改善を図る。</p> <p>○活動指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自立活動の取り組みを行うに当たり、それぞれの児童生徒の課題を整理する。 ・授業参観および話し合いを行い、授業改善を図る。 ・学校生活全体を通して、課題を意識し適切に指導できたか振り返り、次年度以降の授業づくりに生かす。 <p>○成果指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年度末にアンケートを行い、専門性について向上することができたと答える教員の割合が80%以上である。 		

<p>地域ネットワークの拡大</p>	<p>【進路・教育支援】</p> <p>地域の小中学校や高等学校への巡回教育相談や夏季公開研修会等の実施を通し、小中学校や高等学校の教員の特別支援教育の理解と資質向上を図る。</p> <p>○活動指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小中学校や高等学校との連絡を密に取り、ニーズを把握。 ・きめ細やかな巡回教育相談の実施。 ・支援法、教材教具、進路相談等の情報提供。 <p>○成果指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の、すべての小中学校や高等学校に支援の成功事例の紹介を行なう。 		
<p>児童生徒の安全・安心かつ充実した学習環境の整備</p>	<p>【生活支援部】</p> <p>安全・安心に係わる児童生徒の満足度調査の実施と課題の検討</p> <p>○活動指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒に対する学校独自アンケートを実施 <p>○成果指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アンケートを2回実施し、1回目の結果からの行動の改善と2回目の結果から次年度に向けた課題の整理ができたか 		
<p>情報提供による信頼の構築</p>	<p>ホームページによる情報提供や報道機関への資料提供を通じて、本校の教育活動を情報発信していく。</p> <p>○活動指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本校ホームページの全面リニューアルを行う。 <p>○成果指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ホームページの更新月1回以上 ・報道機関への資料提供年5回以上 		
<p>職場環境の整備</p>	<p>教職員が、健康で意欲的に教育活動に取り組むとともに、コンプライアンスを意識して業務を遂行する職場環境を醸成する。</p> <p>○活動指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・原則として、毎月第2、第4金曜日を定時退校日とする。 ・会議は40分(16:10～16:50)以内の終了を目指す。 ・連絡事項はオンラインを活用する。 ・日曜日は出勤しない。 <p>○成果指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・定時退校日に定時退校できた職員の割合 80%以上 ・時間内に終了した会議の割合 80%以上 ・1人当たりの月平均時間外労働時間 12 時間以内 ・月 45 時間を超える時間外労働者数 0 人 ・年 360 時間を超える時間外労働者数 0 人 		

	<ul style="list-style-type: none"> ・1人当たりの年間休暇取得日数16日以上 ・オフサイトミーティングを年1回以上実施する。 ・コンプライアンスミーティングを年3回実施する。 ・年度末の職員アンケートで満足度 80%以上 		
改善課題			

5 学校関係者評価

明らかになった改善課題と次への取組方向	
---------------------	--

6 次年度に向けた改善策

教育活動についての改善策	
学校運営についての改善策	